



大久保病院だより

白内障

眼科 土居亮博

白内障とは

眼の中の「水晶体」と呼ばれるレンズの働きをする組織が濁ってしまうことにより、目が見えにくくなる病気です。一般的にお年寄りに多く見られる白内障というのは正確には加齢性（老人性）白内障と呼ばれ、その名の示す通り加齢により増えてくる病気です。もっとも、病気というよりは一種の老化現象と言った方がよいかもしれません。

症状は？

症状としては物が見づらくなったり、また特に日中屋外において、強いまぶしさを感じたりする、といったことが挙げられます。これらの症状は目の中の「水晶体」が濁ることによって外部からの光が遮られたり、水晶体内部で乱反射したりすることにより生じます。

治療法は？

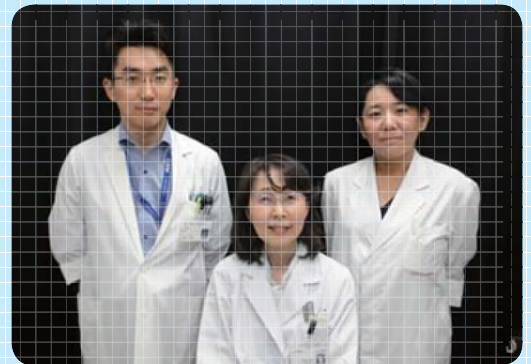
治療法としては手術が一般的です。濁った「水晶体」を超音波で砕いて吸引し、代わりに人工のレンズを挿入します。手術前に目薬による麻酔をしますので、手術中に痛みを感じることはほとんどありません。手術自体は一般的に15～20分程度で終了します。

手術した方がいいの？

軽度の白内障では手術をする必要はなく、白内障の進行を遅らせる目薬を使うことが一般的です。しかし、目薬で白内障を治療することはできませんので、見づらさを感じているのであれば手術を受けた方がよいでしょう。白内障は一種の老化現象ですので、たとえ進行しても見づらくなる以上の症状が出ることはありません。しかし、一般的に白内障は進行すればするほど手術が難しくなりますので、上記のような症状のある方は検査を受けることをお勧めします。

大久保病院では？

当院眼科では医師3人体制で年間約690件（2012年度）の白内障手術を行っております。患者さんのご都合に合わせて日帰り手術から入院手術まで幅広く対応しております。お気軽にお問合せ下さい。



リハビリテーション科紹介

リハビリテーション科は、常勤医師2名、理学療法士9名（うち常勤6名）、作業療法士5名（うち常勤3名）、言語聴覚士4名（うち常勤2名）で診療しています。

脳卒中科、整形外科、内科や外科の入院患者さんのリハビリを行う以外に、リハビリテーション科でも独自にベッドを15床持っており、リハビリ目的の入院に対応しています。亜急性期病床を中心に運用しているため、短期（2ヵ月以内）で自宅または施設へ退院できる方を対象にしています。

対象とする主な疾患は、脳血管疾患、神経や筋肉に障害をきたす神経筋疾患、運動器疾患（骨折、変形性関節症などの手術後）や手術後の体力低下等によって生じる心身機能の不調などです。地域の病院や福祉機関との連携を密にし、退院後の患者さんの問題に対処できるようにしています。

また、ボトックス治療や嚥下障害の評価・リハビリの相談も受けています。

入院や外来治療を希望される患者さんがいらっしゃいましたら、医療相談室までお願い申し上げます。

整形外科紹介

なかなか治らない関節痛、腰痛をお持ちの方、大久保病院で詳しい検査や治療を受けてみませんか。当院整形外科の医師は慶應義塾大学整形外科学教室から派遣されており、大学病院レベルの治療を受けることが可能となっています。少人数による機動性を生かし、大学病院のように手術まで数か月待ちということもありません。

通常の診察、X線以外にMRI、超音波、CT、骨シンチなどの必要な精密検査の結果を合わせ、まず正しく診断し、個々の患者さまの状態に合わせた治療を行っていきます。通院での投薬、注射、リハビリが必要な際にはご自宅から通いやすい病院への紹介も行っています。

手術としては低侵襲人工関節手術、顕微鏡下脊椎手術、関節鏡手術を中心として行っています。どの手術もリハビリを早くから行うことができ、入院期間も短期間で済むことが特徴となっています。まだ一部の病院でしか行われていない手関節鏡・肘関節鏡・足関節鏡の手術も行っています。

他の病院で治療を受けていらっしゃる場合、紹介状や検査結果などをお持ちいただくと、より早期の治療開始が可能となります。お電話でご予約（TEL 03-5285-8811）の上、整形外科外来までお越しください。



院内感染対策チーム

この季節になると、ノロウイルスやインフルエンザにかかる患者が増加し、感染の拡大が報じられます。そのような感染性の病気から患者さんを守るためにICT（Infection Control Team:院内感染対策チーム）は日々活動しています。

一口に感染のコントロールといっても簡単なことではなく、医療にかかわる全員が同じ目的意識のもと力を合わせる必要があります。そのために、ICTは医師、看護師、薬剤師、検査技師など多職種で構成され、定期的にミーティングやラウンドを行い部門の枠を超えて活動しています。主な活動内容は次の3点です。

- ①感染サーベイランス業務：病原微生物の検出状況や抗菌薬の使用状況を監視し、異常の早期発見と対処に努めています。
- ②感染コンサルテーション業務：感染防止研修の開催、院内ルール作り、新しい対策物品の導入を行っています。また、治療や予防に難渋する感染症例についても個別的なアドバイスをしています。
- ③他施設との連携と情報収集：周辺施設と情報交換し、お互いに良いところを取り入れることで全体のレベルアップを図っています。また、医療の進歩に伴う感染制御の新しい知見も日常の診療に反映させます。



電子カルテ導入のお知らせ

当院では昨年12月1日より新たな電子カルテシステムを導入いたしました。

電子カルテシステムとは診療過程で発生する情報を総合的に記録管理する書類（カルテ）を電子データとして収集・保存・参照するシステムです。

電子カルテシステムを新しくしたことにより、導入本来の目的である「医療の質の向上」「患者中心の医療の実現」及び昨今問題視されている情報セキュリティへの強化向上等を更に充実させていきます。

電子カルテシステム導入当初は患者さまを長時間お待たせしてしまうなどご迷惑をお掛けしたことをお詫び申し上げます。

今後とも効率的でよりよい医療を提供できるよう、職員一同邁進して参ります。



公益財団法人 東京都保健医療公社

大久保病院

〒160-8488

東京都新宿区歌舞伎町2-44-1

TEL 03-5273-7711(代表)

URL <http://www.ohkubohospital.jp>

